

玉川教会たより

NO. 490

2017年2月19日

町田市玉川学園4-5-32

TEL. 042-732-9321

FAX. 042-732-9337

Eメール chiyosi514@yahoo.co.jp

『逆風の時に』

マタイ福音書14:22~36

▼24節。「逆風のために波に悩まされていた」とあります。逆風です。

ヨットは逆風を生かして、逆風の時にこそスピードが出るのだそうですが、このことには、比喩として限界があります。逆風は逆風、前に進まないのです。イエスさまを忘れては、教会は前に進みません。

▼25節。「夜が明けるところ、イエスは湖の上を歩いて弟子たちのところに行かれた」

「夜が明けるところ」が何を比喩するのか、何か深い意味が隠れていそうです。イエスさまが「湖の上を歩いて弟子たちのところに行かれた」ら、教会に夜明けが来ると読んだら、少し比喩的解釈に過ぎるでしょうか。

単純に、最も疲れ果てた頃にと取れば、それでよろしいかも知れません。

「湖の上を歩いて」が何を比喩するのか、これも、何か深い意味が隠れていそうです。上を、と言うのは超越していることを指していると言ったら、少し乱暴な解釈かも知れません。分かりませんが、少なくとも、泳いでではありません。

▼26節のような反応は随所に見られます。

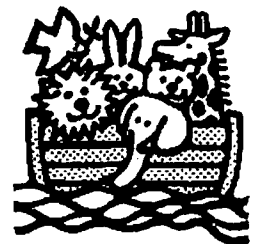
私たちも、常に奇跡を求めているのに、本当に奇跡を見たならば、こんなことになるだろうと思います。

「弟子たちは、イエスが湖上を歩いておられるのを見て、

「幽霊だ」と言っておびえ、恐怖のあまり叫び声をあげた」

私たちは、常に奇跡を願い求めているようでいて、

実際には、私たちには奇跡を受け入れる用意は全くないのです。



▼27節。

「イエスはすぐ彼らに話しかけられた。「安心なさい。わたしだ。恐れることはない」」

私たちはやはりイエスさまの言葉で安心します。この言葉だけが、真に私たちの救いです。イエスさまが共に居て下さるといことが私たちの救いです。

▼28~29節。

「すると、ペトロが答えた。「主よ、あなたでしたら、わたしに命令して、水の上を歩いてそちらに行かせてください。」29:イエスが「来なさい」と言われたので、

ペトロは舟から降りて水の上を歩き、イエスの方へ進んだ」

人は、そして教会は水の上を歩くことができます。もし、それが主の御心ならば、そして、主の御心であると、人が信じるならば。現に、教会は水の上を歩いて来たのです。

しかし、疑いが生まれた時、その瞬間、人は、世の嵐の中に墜ち、沈んでしまうのです。

▼30節以下に描かれたことが、教会の現実です。世の嵐を恐れ、嵐に遮られて向こう岸が見えなくなってしまう。その時になすべきことも、ここに語られています。「主よ助けて下さい」とペテロは叫びました。世の嵐の下に埋没しようとする時に、主の名を呼び求める以外にはありません。「そして、二人が舟に乗り込むと、風は静まった」。

嵐を鎮める方法もここに描かれてあります。教会という名前の舟に乗り込むのです。